

## 2018年度CSR活動方針 (ISO26000の枠組による活動方針)

### 1 マネジメントシステムおよび組織統治

「法令を遵守し健全で透明な企業活動」を行うためにRC活動倫理を基本にRCコードに基づいたPDCAサイクルとして、目標設定・改善・定期的見直しを継続的に推進します。

CSRでいう7つの社会的責任の原則(説明責任、透明性、倫理的な行動、ステークホルダーの利害の尊重、法の支配の尊重、国際行動規範の尊重、人権の尊重)に則り事業活動を行います。海外事業においてもCSR・RC活動を展開します。

### 2 環境保全

省エネ、省資源、廃棄物の削減・リサイクル、有害物質の排出削減に努め、事業活動による環境影響を最小にします。

### 3 保安防災・BCP

重大な設備災害を防止し安全で安定した生産活動を推進します。BCP(事業継続計画)を確立し継続的に改善を行います。

### 4 労働安全衛生

無災害で元気に働く喜びを感じることでできる職場づくりを推進します。

### 5 物流安全・品質保証・消費者課題

製品の輸送、流通に関する、危険・有害性・輸送途上の事故のリスクを低減し、物流事故の未然防止を図ります。顧客満足に貢献します。

### 6 化学品・製品安全

化学物質および製品の危険・有害性が及ぼす環境・安全・健康面に配慮し、国内法規制、国際基準、条約等を遵守するとともに、これらに含まれない社会的な要請に基づく規制にも対応し、顧客信頼・社会からの信頼を高めます。

### 7 社会との対話・コミュニティ参画および開発・公正な事業慣行・コンプライアンス

環境保護・安全について諸活動に参加し、化学物質の環境・安全・健康について利害関係者との対話に努め、社会からの信頼の向上に努めます。法的要求事項を遵守し透明性を高めます。

### 8 人権・労働慣行

人権を尊重し、その重要性および普遍性の両方を認識し行動します。社会的に責任のある労働慣行は、社会の正義および平安に必要不可欠であり、法の支配の尊重および社会に存在する公正意識に及ぼすことを認識して行動します。

## CSR新中期活動目標 (2016-2019年度)

## 日本曹達グループのCSR活動目標 (2016-2019年度 新中期活動目標)

1. マネジメントシステム<sup>RC</sup>および組織統治<sup>CSR</sup>

目標 適正な運用  
(行動) PDCAサイクルによる継続的改善。ヒューマンエラートラブル防止対策の強化実施。

2. 環境保全<sup>RC・CSR</sup>

## (1) 環境異常

目標 発件数ゼロ  
(行動) 環境影響評価によるリスク低減対策の実行。ヒューマンエラートラブル防止対策の計画実施

## (2) エネルギー

## ① エネルギー原単位

目標 年1%改善、新中期満了時4%改善。  
(行動) 省エネ目標を見据え、改善テーマの「設定」「実行」「評価」による確実な原単位改善の実施。

## ② 物流エネルギー原単位

目標 年1%改善、新中期満了時4%改善。  
(行動) 物流省エネ目標を見据え、改善テーマの「設定」「実行」「評価」による確実な原単位改善の実施。

## (3) 地球温暖化ガス排出削減

目標 CO<sub>2</sub>排出量年1%削減、新中期満了時4%削減。フロン使用機器からのフロン漏えい撲滅。  
(行動) 削減目標を見据え、省エネ活動と連携した改善の実施。フロン使用機器定期点検、整備の実施。

## (4) 廃棄物

## ① 最終埋立処分量

目標 最終埋立処分量年3%削減、新中期満了時12%削減。  
(行動) 削減目標を見据え、改善テーマの「設定」「実行」「評価」による確実な原単位改善の実施。

## ② ゼロエミッション

目標 ゼロエミッションの継続  
(行動) 最終埋立処分量および移動量削減による全事業場のゼロエミ達成継続

## (5) 大気への有害物質排出

目標 対2014年度比年12.5%削減、新中期満了時5割削減  
(行動) 有害物排出削減対策の立案・実施

## (6) 生物多様性、生態系への影響の低減

目標 生物多様性、生態系への影響の低減を目標に掲げ活動計画を立案、実施する。  
(行動) 環境保全活動を通じて環境負荷を低減して生物多様性の保全に寄与する。関係機関等とのコミュニケーションを通じて、生物多様性の拡充、連携、協力に努める。

3. 保安防災<sup>RC</sup>・BCP

## (1) 重大設備災害

目標 無災害  
(行動) 重大設備災害ゼロの達成。BCPと連携し、重大設備災害発生リスクの低減実行。

## (2) BCP (事業継続計画) 維持・改善

目標 PDCAサイクルによるBCPの維持改善  
(行動) 首都直下、多連動地震に備えた、全社緊急対策本部の設備充実と定期訓練実施。

4. 労働安全衛生<sup>RC</sup>

## (1) 労働災害 休業・不休業

目標 無災害  
(行動) リスクアセスメントによるリスク低減策実施。ヒューマンエラー防止強化。安全活動の活性化(KY、指差呼称、相互注意、ヒヤリハット、5S、改善活動、その他キャンペーン等)。

## (2) 健康増進

目標 メンタル含む休業延べ日数の5%改善、私傷病発件数の5%改善 (/2012-2014平均)  
(行動) 定期健康診断のフォローアップ。メンタルヘルスチェックとフォローアップ。健康教育。

5. 物流安全<sup>RC</sup>・品質保証・消費者課題<sup>CSR</sup>

## (1) 物流クレーム

目標 対2014年度比年3割削減、新中期満了時撲滅  
(行動) 本社物流部門とRC部門の積極的関与による物流クレームリスクの抽出と低減。事業場物流部門とRC部門の積極的関与による物流クレームリスクの抽出と低減。

## (2) 製品クレーム

目標 対2014年度比年3割削減、新中期満了時撲滅  
(行動) 品質リスクアセスメントの全社導入によるA、Bランクリスクの前年度比3割削減  
ヒューマンエラー防止強化

## (3) 消費者課題

目標 課題の共通認識  
(行動) 消費者向け製品の抽出と安全性の確認

6. 化学品・製品安全<sup>RC</sup>

## (1) 化学品法令遵守

目標 違反件数ゼロ  
(行動) 新化学物質管理システムによる化学物質の管理強化 (国内、海外SDS、ラベル作成対応)。化学物質管理に関する定期教育の実施。

7. 社会との対話<sup>RC</sup>・コミュニティ参画および開発<sup>CSR</sup>・公正な事業慣行<sup>CSR</sup>・コンプライアンス

## (1) 地域懇談会・コミュニティ参画

目標 地域懇談会の現状回数維持と内容の充実  
(行動) 地域関係者、関係機関との対話継続と内容の充実

## (2) 法的小およびその他要求事項

目標 逸脱件数ゼロ  
(行動) 法規制確認書の作成とPDCAサイクルによる確認、逸脱の再発防止対策と水平展開。

## (3) ステークホルダーエンゲージメントの積極的実施

目標 1事業場年1回  
(行動) ステークホルダーエンゲージメントを積極的に実施。  
ステークホルダーエンゲージメントで得られた評価をCSR活動の改善に生かす。

8. 人権<sup>CSR</sup>・労働慣行<sup>CSR</sup>

## (1) 多様性の受容

目標 女性、障がい者、高齢者、外国人の雇用比率向上  
(行動) 多様な人材の能力を最大限発揮させる企業文化の醸成と職場環境整備の推進

## (2) 働きがいと誇りが持てる職場づくり

目標 従業員の職場満足度の把握と向上  
(行動) 社内の相互コミュニケーション強化と人材育成の充実

2016年4月1日  
日本曹達株式会社  
CSR推進委員会委員長  
代表取締役社長

石井 彰

## 2017年度の評価結果と2018年度のCSR活動目標 (ISO26000の枠組による活動方針)

項目	2017年度目標 (KPI)・計画 (P)	2017年度実績 (D)	評価 (C)
1. マネジメントシステムおよび組織統治	(1) 適正な運用 1) PDCAサイクルによる継続的改善 2) ヒューマンエラートラブル防止対策の強化実施	1) ISO取得事業場では新版への移行中。CSR監査で日本曹達:移行完了 グループ:5社中4社移行完了 2) 各事業場、グループ各社で目標設定し対策強化。	(1) 1)◎ 2)○
2. 環境保全	(1) 環境異常:発生件数ゼロ (2) エネルギー 1) エネルギー原単位(除く物流):年1%改善(生産量ベース) 2) 物流エネルギー原単位:年1%改善(売上ベース) (3) 地球温暖化ガス排出削減:年1%削減。フロン漏えい撲滅 (4) 廃棄物 1) 最終埋立処分量:年3%削減 2) ゼロエミッションの継続(5%以下) (5) 大気への有害物質排出:対2014年度比年25%削減 (6) 生物多様性、生態系への影響の低減	(1) 日本曹達 排水協定値逸脱2件、 大気事前協議値逸脱1件 グループ 水濁法届出不備1件 (2) 1) 未達 0.355kL/t(1.8%増)(冬季の気温低下、一部製品生産量減少の影響) 2) 2017年度未達(単価の低い製品の物流量が増加した影響) 0.0230kL/百万円(10.6%増) 輸送実績は46,098千トンキロ、原油換算で1,834kL(前年度比12.9%増) (3) 未達 226,409t増(4.0%増) (4) 1) 達成78t(68%減)(埋立処理廃棄物のリサイクル化進展) 2) 達成 1.2%(5%以下) (5) 達成 5.1t(62%減)(2015年実施の溶媒転換工場の効果) (6) 千葉工場:ヒメコマツサポーター継続実施 小田原研:酒匂川水系メダカ譲受、育成 他事業所検討中(情報収集)	(1)× (2) 1)× 2)× (3)× (4) 1)◎ 2)◎ (5)◎ (6)◎
3. 保安防災・BCP	(1) 重大設備災害:無災害 1) 重大設備災害ゼロの達成  2) BCPと連携し、重大設備災害発生リスクの低減実行 (2) BCP(事業継続計画)維持・改善:PDCAサイクルによるBCPの維持改善	(1) 日本曹達0件 グループ3件 ・9/20:ニッソーファイン磯原 n-BuLi溶液失活作業時に火災発生。 ・10/2:ニッソーファイン磯原 溶接作業時に排水用ビットで火災発生。 ・10/26:ニッソーファイン郡山 蒸留残渣抜出ドラムから白煙発生。 2) 防災診断7件、試運転前安全監査4件、特別CSR監査3件実施 (2) H29年4月1日改定 第7版配布。 各事業所:防災訓練 本社:地震対応時の対応訓練	(1) 1)×  2)◎ (2)◎
4. 労働安全衛生	(1) 労働災害(休業・不休業):無災害 1) リスクアセスメントによる低減策実施 2) ヒューマンエラー防止強化 3) 安全活動の活性化 (2) 健康増進:メンタルを含む休業延べ日数の10%改善、私傷病発生件数の10%改善(2012-2014平均) 1) 定期健康診断のフォローアップ 2) メンタルヘルスチェックとフォローアップ。健康教育	(1) 休業 8件(社員:3件、協力:4件、グループ社員:0件、グループ協力:1件)。 不休6件(社員:1件、協力:0件、グループ社員:3件、グループ協力:2件)。 1) 2) CSR監査、安全パトロールで安全活動状況を確認是正。 3) 労災防止調査:現場作業者のリスク対応力向上を目的としたSOMPO リスクアセスメントによる調査を、12/13-14 高岡工場で実施。 (2) 2011-2014平均より休業延日数32%の減少 発生件数で7%の減少。 1) 2) 改善指導を医療関係者と衛生担当者で実施。	(1)× 1) 2)◎ 3)◎ (2)◎
5. 物流安全・品質保証・消費者課題	(1) 物流クレーム:対2014年度比6割削減 1) 本社物流部門とRC部門の積極的関与による物流クレームリスクの抽出と低減。事業場物流部門とRC部門の積極的関与による物流クレームリスクの抽出と低減 (2) 製品クレーム:対2014年度比6割削減 1) 品質リスクアセスメントの全社導入によるA、Bランク リスクの前年度比3割削減。ヒューマンエラー防止強化 (3) 消費者課題:課題の共通認識 1) 消費者向け製品の抽出と安全性の確認	(1) 2014年度から横ばい(2014年度:3件、2017年度:3件) 1) 物流会社への点検監査及び教育の実施 納入先設備への改善提案の実施 業界団体を通じた情報収集の実施 (2) 2014年度比28%増(2014年度:18件、2017年度:23件) 1) Aランク:98%削減、Bランク:70%削減 各事業場におけるヒューマンエラー教育の実施 (3) 課題の共有化 1) 抽出:ハイクロン・メルサン、農業製剤 安全性の確認:専門機関からの中毒情報の収集の実施 販売代理店への教育の実施	(1)× 1)◎ (2)× 1)◎ (3)◎ 1)◎
6. 化学品・製品安全	(1) 化学品法令遵守(違反ゼロ) 1) 違反件数ゼロ 2) 新化学物質管理システムによる化学物質の管理強化(国内、海外SDS、ラベル作成対応) 3) 化学物質管理に関する定期教育の実施	1) 違反ゼロ 2) 外部業者と協力して対応中 3) 計画に従い実施	(1)◎
7. 社会との対話 RC・コミュニティ参画および開発CSR・公正な事業慣行 CSR・コンプライアンス	(1) 地域懇談会・コミュニティ参画 1) 地域懇談会の回数維持と内容の充実 (2) 法的小およびその他要事項 1) 逸脱件数ゼロ (3) ステークホルダーエンゲージメントの積極的実施 1) 1事業場年1回	(1) 地域懇談会、等(コミュニティ参画) 1) 達成。(25件以上/年) 地域懇談会 49件 (2) 未達。逸脱事項はすべて改善済み 日本曹達:排水協定値逸脱2件(千葉工場、高岡工場) 大気事前協議値逸脱1件(高岡工場) グループ:労基署是正勧告(日曹金属化学株10件、株日曹建設3件) 水質汚濁防止法 特定施設届出遅延(ニッソーファイン株) (3) 達成 1) 日化協によるCSR報告書検証 SOMPOリスクアセスメントによる防災診断、労働災害防止調査他	(1)◎ (2)× (3)◎
8. 人権CSR・労働慣行	(1) 多様性の受容 1) 女性、障がい者、高齢者、外国人の雇用比率向上 育児、介護との両立のための支援策(男女とも)検討、提案 通年 2) 多様な人材の能力を最大限発揮させる企業文化の醸成と職場環境整備の推進 (2) 働きがいと誇りを持てる職場 1) 従業員の職場満足度の把握と向上 2) 社内の相互コミュニケーション強化と人材育成の充実	(1) 多様性の受容 1) 新卒昇格職22名採用、うち女性2名・外国人1名 障がい者雇用率2.04%(2018.3現在) 2) キャリア開発支援制度導入 ・説明会開催(2017.5)・上司キャリア研修実施(2017.6)・20代・30代キャリア研修実施(2017.8)・キャリアビジョンシート策定(2017.9)・キャリア面談実施(2018.2) (2) 1) 各拠点への職場満足度調査結果報告、課題共有 ・アクションプランの策定と実施 ・本社地区「働きがい調査実施」 2) 1-2)によるキャリア研修実施、キャリアビジョンシートによる上司と部下のコミュニケーション強化	(1) 1)△ 2)◎ (2) 1)◎ 2)◎

注) 達成率 ◎:90%以上 ○:90~80% △:80~60% ×:60%以下

今後の方針 (A)	2018年度目標 (P)
<p>1) 残る一社は2018年7月以降予定 OHSAS18001からISO45001への移行準備</p> <p>2) グループ全体でヒューマンエラー防止に ついて、認識対応できるよう 継続的な是正、啓蒙を進める</p>	<p>(1) 適正な運用</p> <p>1) PDCAサイクルによる継続的改善</p> <p>2) ヒューマンエラートラブル防止対策の強化実施</p>
<p>(1) 環境トラブル防止活動をCSR計画に従い実施。</p> <p>(2)</p> <p>1) 計画実行による省エネを推進し、原単位 年1%低減達成に努める。</p> <p>2) 輸送経路の最適化を検討</p> <p>(3) 省エネ活動と連携した改善の実施。法に基づく定期点検、整備の実施。</p> <p>(4)</p> <p>1) 対策実施による削減目標の達成。</p> <p>2) ゼロエミ比率5.0%未満の維持。</p> <p>(5) 削減対策の継続実施。</p> <p>(6) 活動計画を検討立案、実施。</p>	<p>(1) 環境異常:発生件数ゼロ</p> <p>(2) エネルギー</p> <p>1) エネルギー原単位(除く物流):年1%改善(生産量ベース)</p> <p>2) 物流エネルギー原単位:年1%改善(売上ベース)</p> <p>(3) 地球温暖化ガス排出削減:年1%削減。フロン漏えい撲滅</p> <p>(4) 廃棄物</p> <p>1) 最終埋立処分量:年3%削減</p> <p>2) ゼロエミッションの継続</p> <p>(5) 大気への有害物質排出:対2014年度比25%削減</p> <p>(6) 生物多様性、生態系への影響の低減</p>
<p>(1)</p> <p>1) 実施継続。</p> <p>2) 防災診断、試運転前安全監査、特別CSR監査 継続実施</p> <p>(2) H30年4月1日改定 第8版配布 南海トラフ巨大地震の臨時 情報発信時の行動計画]を追加 改訂版(第8版)策定</p>	<p>(1) 重大設備災害:無災害</p> <p>1) 重大設備災害ゼロの達成</p> <p>2) BCPと連携し、重大設備災害発生リスクの低減実行</p> <p>(2) BCP(事業継続計画)維持・改善:PDCAサイクルによるBCPの維持改善</p>
<p>(1) 中央安全衛生委員会、CSR推進部会での全社注意喚起等、 災害発生防止活動継続推進。</p> <p>1) 2) 他事業所への水平展開。</p> <p>3) 労災防止調査結果の改善検討及び他事業場への水平展開。</p> <p>(2)</p> <p>1) 2) 健診結果による有所見者の指導 強化、高ストレス者の早期対応。</p>	<p>(1) 労働災害(休業・不休業):無災害</p> <p>1) リスクアセスメントによる低減策実施</p> <p>2) ヒューマンエラー防止強化</p> <p>3) 安全活動の活性化</p> <p>(2) 健康増進:メンタルを含む休業延べ日数の10%改善、私傷病発生件数の 10%改善(2012-2014平均)</p> <p>1) 定期健康診断のフォローアップ</p> <p>2) メンタルヘルスチェックとフォローアップ。健康教育</p>
<p>(1) 物流会社への点検監査及び教育の継続 納入先設備への改善提案の継続 業界団体を通じた情報収集の継続</p> <p>(2) 社内会議における意見交換、再発防止策の水平展開の継続 社内管理体制の整備の継続</p> <p>(3) 専門機関からの中毒情報の収集の継続 販売代理店への教育の継続</p>	<p>(1) 物流クレーム:対2014年度比9割削減</p> <p>1) 本社物流部門とRC部門の積極的関与による物流クレームリスクの 抽出と低減、事業場物流部門とRC部門の積極的関与による物流ク レームリスクの抽出と低減</p> <p>(2) 製品クレーム:対2014年度比6割削減</p> <p>1) 品質リスクアセスメントの全社導入によるA、Bランクリスクの前年 度比3割削減、ヒューマンエラー防止強化</p> <p>(3) 消費者課題:課題の共通認識</p> <p>1) 消費者向け製品の抽出と安全性の確認</p>
<p>1) 継続</p> <p>2) 継続</p> <p>3) 継続</p>	<p>(1) 化学品法令遵守(違反ゼロ)</p> <p>1) 違反件数ゼロ</p> <p>2) 新化学物質管理システムによる化学物質の管理強化(国内、海外SDS、 ラベル作成対応)</p> <p>3) 化学物質管理に関する定期教育の実施</p>
<p>(1) 計画に従い実施予定</p> <p>(2) 原因究明と再発防止策の実施、 再発防止策の水平展開</p> <p>(3) 計画に従い継続実施</p>	<p>(1) 地域懇談会・コミュニティ 参画</p> <p>1) 地域懇談会の回数維持と内容の充実</p> <p>(2) 法のおよびその他要求事項</p> <p>1) 逸脱件数ゼロ</p> <p>(3) ステークホルダーエンゲージメントの積極的実施</p> <p>1) 1事業場年1回</p>
<p>(1) 1) ・女性採用拡大に向けた新施策実施 ・障がい者雇用促進</p> <p>2) ・キャリア開発支援制度対象者拡大 ・サクセッションプランの導入に向けた検討開始 ・社内報などを通じた社内啓蒙継続 ・ダイバーシティ研修実施</p> <p>(2)</p> <p>1) ・アクションプランの策定と実施</p> <p>2) ・キャリアビジョンシートによる面談</p>	<p>(1) 多様性の受容 女性、障がい者、高齢者、外国人の雇用比率向上 多様な人材の能力を最大限発揮させる企業文化の醸成と職場環境整備の推進</p> <p>(2) 働きがいと誇りが持てる職場づくり: 従業員の職場満足度の把握と向上 社内の相互コミュニケーション強化と人材育成の充実</p>